

カンボジアの ソーシャルビジネスについての 学びと経験

2022年3月9日

サミス・メイ

プノンペン自立生活センター (PPCIL)

目次

- ▶ 自己紹介
- ▶ プノンペン自立生活センター（PPCIL）の紹介
（2019年ゼロ・プロジェクト受賞）
- ▶ パキスタンのフォーラムから学んだこと
- ▶ 2021年11月に実施したワークショップ
- ▶ PPCILのソーシャルビジネス



自己紹介

- 1979年生まれ
- 障害 – ポリオ。手動車いすを使用。
- 障害と社会福祉の分野で18年以上の活動経験。
- 2006年から2007年にかけて、ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業に参加し、日本で自立生活の研修を受ける。
- プノンペン自立生活センター（PPCIL）の設立者、事務局長。



プノンペン自立生活センター（PPCIL）の紹介



2009年設立

支援者:



Human Care



カンボジア唯一の自立生活センター



プノンペン自立生活センター（PPCIL）の紹介

以下の促進を目指して活動

1. 自立生活運動（IL運動）と障害者の
インクルージョン
2. 物理的なアクセシビリティ
3. 介助者
4. 障害者雇用



プノンペン自立生活センター（PPCIL）の紹介



Award Innovative Practice 2019

THE ZERO PROJECT IS PROUD TO CERTIFY, THAT

Phnom Penh Center for Independent Living (PPCIL)

was selected as one of 66 Innovative Practices by the Zero Project's selection committee of renowned disability and accessibility experts. Exemplary in the areas of innovation, impact, chances of long-term growth and success, and scalability.

**Inclusive Community for Persons
with severe Disabilities (ICPD)**

is outstanding in providing a practical solution to improve accessibility for persons with disabilities.

Martin Essi
Founder of the Essi Foundation

Michael Fembek
Programme Director Essi Foundation



パキスタンのフォーラムから 学んだこと

1. ネットワーク構築と協働
2. ステークホルダーとの協働
3. 収入創出やソーシャルビジネス
のモデルづくり
4. 新しい仲間をつくること



2021年11月に実施した ワークショップ

▫ 目的:

- 障害インクルーシブなビジネスの強化促進
- 障害者の能力構築
- 障害者が経営する事業や障害者雇用の促進
- アクセシビリティの推進



2021年11月に実施した ワークショップ

パネルディスカッションの要旨

- すべての事業運営が新型コロナウイルスの影響を受けた。
- 障害者が経営する事業が市場競争に直面する可能性。
- 顧客の信用と信頼を築く。
- 事業成功のカギはその人の自信、意欲、決意、リーダーシップにある。
- 障害者雇用はコストが高い割に生産性が低い、という誤った認識。
- 適切な職業訓練や雇用機会を拡大するには専門的な支援が限られている。
- 障害者が使いやすい物理的な構造や環境について、職場や学校側の意識や知識が限られている。
- 障害者のニーズ、特に事業立ち上げの意思がある障害者のニーズに対して、政府はもっと対応すべき。



2021年11月に実施した ワークショップ

👉 今後について

- プノンペン自立生活センター（PPCIL）は、ビジネスに関する情報共有やコミュニケーションを図るためにTelegram（テレグラム）にグループを立ち上げる。
- 障害者のためにオンライン販売の基盤作りを検討する。
- 労働職業訓練省の国立職業安定所（NEA）に連絡をとる。



障害者のエンパワーメントと雇用促進 プロジェクト (EEPD)



障害者のエンパワーメントと雇用促進 プロジェクト（EEPD）の経緯

- 国際協力機構（JICA）の支援により2014年3月設立。
- 株式会社ファミリアとプノンペン自立生活センター（PPCIL）によって実施。
- 2017年3月にプロジェクトは終了したが、PPCILが引き続き運営を行う。アジア太平洋障害者センター（APCD）より技術協力を、2017年4月から2020年3月までワンテーブルより資金援助を受けた。
- 現在、株式会社エコロギーと連携して実施。



目的

▶ プロジェクト目標：

プノンペン市内および近郊で農産物の加工流通を行う障害者雇用モデルを作り、障害者の社会参加を促進する



バリアフリーな工場



- ✓ 幅が広いスライドドア
- ✓ バリアフリーなトイレ（手すり、洗面器、トイレトーパーホルダー等を適切な高さに設置）
- ✓ 車いすユーザーのための効率的な生産ライン
- ✓ 工場内は階段のかわりにスロープを設置



バリアフリーな工場

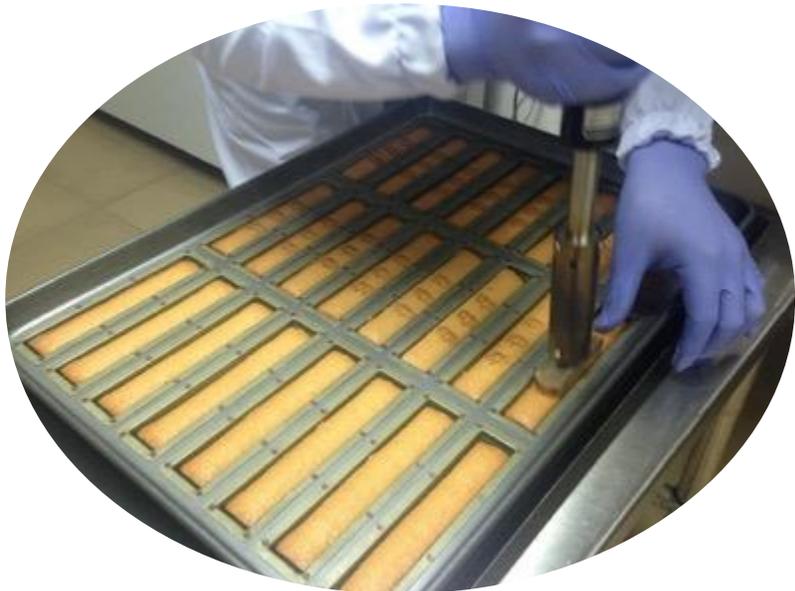


工場の機械の選択
✓ 車いすユーザーの使いやすさ

- ✓ 障害のあるスタッフが使いやすいようにカスタマイズされた流し台やテーブルの供給先がある
- ✓ 車いすユーザーに適した高さ
- ✓ フレキシブルで長めの管の先に吐水口がついた蛇口



製造室



工場の設備

乾燥機

- 車いすユーザーに適した高さ
- 運びやすい小さめのトレイ

サニタリークラッシャー (製粉用)

- 清潔を保ちやすい
- 安全性

日本より



真空包装機



プラネタリー
ミキサー



冷蔵庫



電気オーブン

現行商品

ドライマンゴーやその
他のドライフルーツ



ローストカシューナッツ



塩漬け黒胡椒



改善点

- ▶ 製品の品質管理とマーケティングマネジメント
 - ▶ 食品包装と食品表示ラベル
 - ▶ 事業計画の作成
 - ▶ マーケティング戦略
 - ▶ 販売およびマーケティングプラン
 - ▶ 障害者のために就労や事業のガイドライン



今後について

- ▶ ベーカリー/工場の引っ越し
- ▶ 基準を満たすパッケージデザインの開発
- ▶ 国内外で商品の販売
- ▶ 障害者のエンパワーメントと雇用促進プロジェクト（EPPD）の事業拡大
- ▶ スウェーデン大使館、社会問題・退役軍人・青少年更生省（MOSVY）、国立職業安定所（NEA）と協働し、障害者の就労機会を創出する。





ご清聴ありがとうございました

